

103

C

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 21 年 2 月 14 日 16 時 00 分～17 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 31 問で解答時間は正味 1 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 応召義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

1 組合せで誤っているのはどれか。

- a 生活習慣病予防 ————— 行動変容
- b 食事摂取基準 ————— 栄養所要量
- c 健康日本 21 ————— 寿命の延伸
- d 健康増進法 ————— 受動喫煙の防止
- e オタワ憲章 ————— ヘルスプロモーション

2 リスボン宣言に記されている患者の権利でないのはどれか。

- a 健康教育を受ける権利
- b 良質の医療を受ける権利
- c 宗教的支援を受ける権利
- d 別の医師の意見を求める権利
- e 自殺企図時に救命を拒否する権利

3 血圧で正しいのはどれか。

- a 起床時が最も低い。
- b 運動中は低下する。
- c 入浴後に上昇する。
- d 加齢とともに上昇する。
- e 上肢よりも下肢が低い。

4 電解質補正を目的とする輸液を行うのはどれか。

- a 誤 嚥
- b 激しい嘔吐と下痢
- c けいれん重積状態
- d 喘息発作重積状態
- e アナフィラキシーショック

5 身体診察の組合せで正しいのはどれか。

- a 肝 ————— 側臥位
- b 腎 ————— 腹臥位
- c 膀胱 ————— 立 位
- d 前立腺 ————— 腹臥位
- e 直 腸 ————— 側臥位

6 創傷治癒を阻害しないのはどれか。

- a 低蛋白血症
- b 高脂血症
- c 肝硬変
- d 糖尿病
- e 貧 血

- 7 緑膿菌感染症で正しいのはどれか。
- a 高圧酸素療法が有効である。
 - b 間質性肺炎を起こしやすい。
 - c 飛沫感染が主である。
 - d 日和見感染が多い。
 - e 市中肺炎に多い。
- 8 表皮に変化がみられるのはどれか。
- a 蕁麻疹
 - b 網状皮斑
 - c 接触皮膚炎
 - d 結節性紅斑
 - e 蜂巣炎(蜂窩織炎)
- 9 出血性ショックの症候でないのはどれか。
- a 意識混濁
 - b 皮膚湿潤
 - c 四肢冷感
 - d 徐脈
 - e 血圧低下

10 組合せで誤っているのはどれか。

- a 心 房 ————— aorta
- b 動 脈 ————— artery
- c 静 脈 ————— vein
- d 神 経 ————— nerve
- e 脊 柱 ————— spine

11 検体を凍結してもよい検査はどれか。

- a PT
- b 赤 沈
- c 赤血球数
- d 嫌気性菌培養
- e 血清アルブミン

12 非妊女性の正常診察所見はどれか。

- a 膣分泌物は淡緑色泡沫状である。
- b 子宮は後傾後屈である。
- c 子宮は鶏卵大に触れる。
- d 子宮頸部の可動性は体部に比べて良好である。
- e 卵巣はくるみ大に触れる。

13 脊髄病変の高位診断で髄節障害を判定する指標として重要なのはどれか。

- a 腱反射
- b 筋緊張
- c 運動失調
- d 深部感覚
- e 足底反射

14 失神発作を起こしにくいのはどれか。

- a 起立性低血圧
- b 大動脈弁狭窄症
- c 僧帽弁閉鎖不全症
- d 洞機能不全症候群
- e 肥大型閉塞性心筋症

15 清潔野を作り、切開排膿をする手順(別冊No. 1 ㉗~㉜)を別に示す。

4番目に行うのはどれか。

- a ㉗
- b ㉘
- c ㉙
- d ㉚
- e ㉜

別冊 No. 1 ㉗~㉜

16 17歳の男子。10日前からの発熱、咽頭痛および倦怠感を主訴に来院した。鼻汁、鼻閉および咳嗽はない。両側後頸部リンパ節腫脹と脾腫とを認める。皮疹はみられない。血液検査で白血球 12,400、異型リンパ球 78 %。

口腔内にみられるのはどれか。

- a 後鼻漏
- b イチゴ舌
- c Koplik 斑
- d 扁桃白苔
- e 咽頭後壁の敷石像

17 47歳の男性。事務職員。健康診断後の保健指導のため社内診療室に来室した。

身長 165 cm、体重 70 kg、腹囲 88 cm。脈拍 68/分、整。血圧 128/82 mmHg。喫煙歴はない。飲酒はビール大瓶 2 本/日を 27 年間。尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液生化学所見：空腹時血糖 105 mg/dl、トリグリセリド 150 mg/dl、HDL-コレステロール 40 mg/dl、LDL-コレステロール 145 mg/dl (基準 65~139)、AST 35 IU/l、ALT 20 IU/l、 γ -GTP 80 IU/l (基準 8~50)。心電図に異常を認めない。摂取エネルギー量 2,800 kcal/日、脂質摂取量 120 g/日、塩分摂取量 7.5 g/日、食物繊維摂取量 10 g/日。

栄養指導のうち必要性が低いのはどれか。

- a 減 塩
- b 節 酒
- c 低脂肪食
- d 野菜摂取の奨励
- e 摂取エネルギー量制限

18 19歳の女性。肥満を主訴にやせ薬の処方希望して来院した。身長156 cm、体重72 kg。幼児期から肥満で、小学生の時にも肥満に対する指導を受けていたが、どうしてもやせることができなかった。今では自分の力だけではやせることは到底無理だと思うようになっている。

医師の発言として最も適切なのはどれか。

- a 「私はやせ薬の処方はしません」
- b 「薬でやせようなんてもってのほかです」
- c 「やせようという気持ちがあればやせられるはずですよ」
- d 「どういうことで今回やせたいと思うようになったのですか」
- e 「このまま肥満が続くと生活習慣病を発症するのは間違いありません」

19 17歳の男子。糖尿病性ケトアシドーシスによる意識障害のためチーム医療が可能な病院に搬入された。インスリン治療で意識は回復した。学校生活に戻るために、多職種メンバーによる面談を主治医は計画している。

面談に加わらない職種はどれか。

- a 看護師
- b 薬剤師
- c 担任教師
- d 理学療法士
- e 管理栄養士

20 70歳の男性。胃癌のため入院し精査中である。他の専門病院でセカンドオピニオンを求めたいとの申し出があった。脳梗塞の既往があり、要支援の介護サービスを受けていた。

患者に渡すのはどれか。

- a 診断書
- b クリニカルパス
- c 診療情報提供書
- d 入院診療計画書
- e 介護保険主治医意見書

21 37歳の女性。息切れを主訴に来院した。3か月前から舞踊教室に通っている。朝方、咳で目が覚め、息苦しさを感ずるようになった。IgE RAST でハウスダスト 3+。

所見としてみられるのはどれか。

- a 過呼吸
- b ばち指
- c 呼気延長
- d fine crackles
- e coarse crackles

22 3歳の女兒。腹痛と嘔吐のため搬入された。5時間前に腹痛を訴え、無色透明な液を嘔吐した。その後次第に嘔吐が頻回となり、吐物は緑色となってきた。顔色は不良である。上腹部がやや膨満し、腸雑音は高調である。

まず行うのはどれか。

- a 便の細菌培養
- b 吐物の pH 測定
- c 腹部エックス線撮影
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 上部消化管造影

23 45歳の男性。突然の会陰部に放散する右側腹部痛のため搬入された。意識は清明。体温 36.8℃。脈拍 96/分、整。血圧 154/72 mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。尿所見：蛋白(±)、ビリルビン(-)、潜血 2+、沈渣に赤血球 50~100/1視野、白血球 1~2/1視野。血液所見：Hb 16.8 g/dl、白血球 10,000、血小板 28万。直腸診で異常を認めない。

この患者にみられるのはどれか。

- a 両側肺下部の coarse crackles 聴取
- b 肺肝境界の消失
- c Blumberg 徴候陽性
- d 右肋骨脊柱角部叩打痛
- e 右大腿動脈拍動の減弱

24 57歳の男性。今朝から始まった肉眼的血尿を主訴に来院した。既往歴に特記すべきことはない。喫煙は20本/日を37年間。意識は清明。身長163cm、体重60kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧136/84mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。直腸診で前立腺はくるみ大で、硬結と圧痛とを認めない。尿所見：蛋白1+、糖(-)、潜血3+、沈渣に赤血球多数/1視野、白血球5~10/1視野。血液所見：赤血球486万、Hb15.2g/dl、Ht45%、白血球6,300、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白7.2g/dl、アルブミン4.5g/dl、尿素窒素20mg/dl、クレアチニン0.9mg/dl、尿酸7.1mg/dl、AST26IU/l、ALT18IU/l、LD(LDH)258IU/l(基準176~353)、ALP212IU/l(基準115~359)、Na143mEq/l、K4.6mEq/l、Cl104mEq/l。免疫学所見：CRP0.2mg/dl、PSA1.2ng/dl(基準4.0以下)。

対応として適切なのはどれか。

- a 輸液
- b 経過観察
- c 抗菌薬投与
- d 膀胱鏡検査
- e 前立腺針生検

25 55歳の男性。夜間、突然の呼吸困難のため搬入された。5年前に拡張型心筋症の診断を受けている。喘鳴が著明でピンク色の泡沫状喀痰排出があった。マスクで酸素投与(6l/分)を開始した。呼吸数24/分。脈拍124/分、整。血圧98/78 mmHg。動脈血ガス分析(自発呼吸)：pH 7.28、PaO₂ 68 Torr、PaCO₂ 52 Torr。胸部エックス線写真は両側肺門部を中心に蝶形陰影を呈する。

まず投与すべき薬剤はどれか。

- a アルブミン
- b 重炭酸ナトリウム
- c プレドニゾロン
- d フロセミド
- e プロプラノロール

次の文を読み、26、27の問いに答えよ。

54歳の男性。意識障害のため搬入された。

現病歴 : 4日前から感冒様症状があり、発熱と頭痛とが持続していた。近医で投薬を受けたが、頭痛が増強したため仕事を休んで療養していた。2時間前、突然右上肢から始まる全身けいれんを起こした。

既往歴・生活歴 : 特記すべきことはない。

家族歴 : 父親が高血圧症。

現症 : 意識レベルはJCSⅡ-10。身長170 cm、体重64 kg。体温38.6℃。脈拍88/分、整。血圧152/84 mmHg。項部硬直を認める。軽度の右上肢麻痺を認める。右上肢の筋トーンは低下し、腱反射は亢進している。四肢の痛覚刺激に対する反応に左右差を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球445万、Hb14.7 g/dl、Ht46%、白血球11,000、血小板15万。血液生化学所見：血糖102 mg/dl、総蛋白7.6 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、尿素窒素14 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、総ビリルビン0.8 mg/dl、AST30 IU/l、ALT24 IU/l、CK450 IU/l(基準40~200)、LD(LDH)320 IU/l(基準176~353)、ALP198 IU/l(基準115~359)、Na142 mEq/l、K4.0 mEq/l、Cl103 mEq/l。CRP3.1 mg/dl。頭部単純CTに異常を認めない。

26 右上肢麻痺の責任病巣はどこか。

- a 大 脳
- b 小 脳
- c 脊 髄
- d 末梢神経
- e 筋 肉

27 診断の確定に最も重要なのはどれか。

- a 脳 波
- b 筋電図
- c 神経伝導速度
- d 脳脊髄液検査
- e 頭部エックス線写真

次の文を読み、28、29の問いに答えよ。

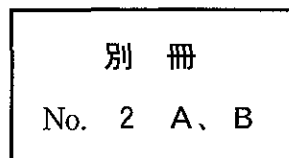
28歳の女性。全身の皮疹と発熱のため搬入された。

現病歴 : 4日前から頭痛と咽頭痛とがあり、感冒薬を内服していた。3日前から発熱が持続し、眼球結膜の充血、口腔内びらん、顔面、体幹および四肢に皮疹が出現した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長158 cm、体重49 kg。体温39.2℃。脈拍112/分、整。血圧104/72 mmHg。全身に紅色皮疹を認める。顔面の写真(別冊No. 2A)と大腿部の写真(別冊No. 2B)とを別に示す。

検査所見 : 尿所見: 蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見: 赤血球380万、Hb 10.8 g/dl、Ht 32%、白血球9,400、血小板24万。血液生化学所見: 総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、尿素窒素5.5 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、AST 104 IU/l、ALT 283 IU/l、LD(LDH) 487 IU/l(基準176~353)、Na 129 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 94 mEq/l。CRP 15.8 mg/dl。



28 最も考えられるのはどれか。

- a 薬疹
- b 敗血症
- c アナフィラキシー
- d ウイルス性発疹症
- e 播種性血管内凝固(DIC)

29 治療薬として適切なのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 抗ウイルス薬
- c 抗アレルギー薬
- d 副腎皮質ステロイド
- e 非ステロイド性抗炎症薬

次の文を読み、30、31の問いに答えよ。

21歳の女性。下腹部痛を主訴に来院した。

現病歴 : 5日前に発熱を認めた。3日前から下腹部痛と帯下の増加とが出現した。

既往歴 : 16歳時に膀胱炎。

家族歴 : 母親と兄が尿管結石。

生活歴 : 6歳から10歳まで海外で過ごした。

月経歴 : 初経13歳。18歳までは周期27日型、持続5日間、中等量、月経痛は認めない。

服薬歴 : 避妊を目的に18歳から低用量ピルを服用している。

性交歴 : 16歳から不特定多数の男性と性交渉がある。

現症 : 身長155 cm、体重48 kg。体温36.8℃。呼吸数22/分。脈拍108/分、整。血圧120/70 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腹部正中に圧痛を認める。

30 診断に最も有用なのはどれか。

- a 家族歴
- b 生活歴
- c 月経歴
- d 服薬歴
- e 性交歴

31 血液検査で以下の結果が得られた。

赤沈 46 mm/1時間。血液所見：赤血球 412 万、Hb 12.9 g/dl、Ht 41 %、白血球 12,200、血小板 18 万。血液生化学所見：尿素窒素 19 mg/dl、クレアチニン 0.8 mg/dl、総ビリルビン 1.1 mg/dl、直接ビリルビン 0.6 mg/dl、AST 73 IU/l、ALT 86 IU/l、LD (LDH) 380 IU/l (基準 176～353)、ALP 222 IU/l (基準 115～359)、Na 137 mEq/l、K 4.5 mEq/l、Cl 107 mEq/l。CRP 6.4 mg/dl。

治療としてまず行うのはどれか。

- a 浣腸
- b 腹腔鏡手術
- c 抗菌薬投与
- d 胃粘膜保護薬投与
- e 非ステロイド性抗炎症薬投与